

日産車体株式会社

個人投資家向け会社説明資料



2024年11月

コーポレートパーパス・ミッション等

コーポレートパーパス(存在意義)

人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。

ミッション(使命)

私達日産車体は信頼される企業として、独自性に溢れ、お客さまに魅力ある質の高いクルマとサービスを、タイムリーにお届けします。

DNA

他のやらぬことをやる。

情熱的 革新的 挑戦者 機動性

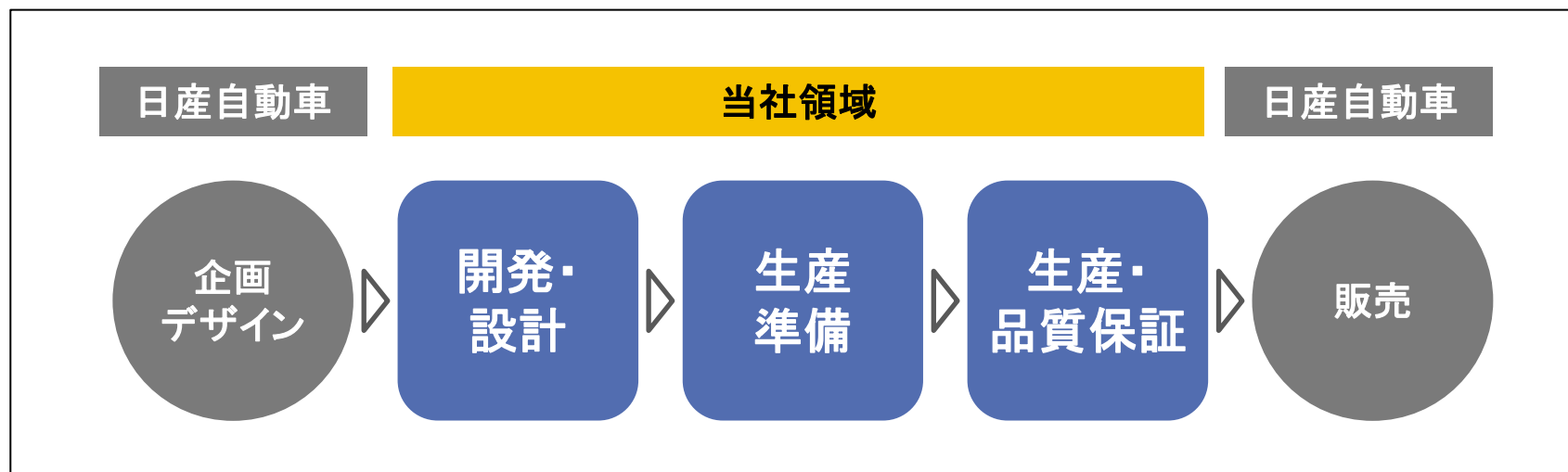
Nissha-ism

日車らしさを、車づくりで表現する。

- ・お客さま、仲間を想い、知恵を出す
- ・何ができるか自ら考え行動する
- ・機動力を活かし、チームで挑み続ける

Outline

日産車体は、
商用車・プレミアムカーを中心とした開発・設計から
生産準備、そして工場での生産・品質保証までを担う
日産グループの完成車メーカーです



日産車体グループ

湘南工場と日産車体九州の2つの生産拠点が主軸です

	日産車体(株)	日産車体九州(株)
設立	1949年	2007年
事業内容	各種自動車の開発から 品質保証まで	自動車および その部分品の製造・販売
従業員数	1,681名	1,072名
生産拠点	神奈川県平塚市	福岡県苅田町

(2024年3月31日現在)

湘南工場



日産車体九州工場



グループ会社

日産車体マニファクチャリング株式会社

- ▶ 自動車部品のプレス加工・組立、樹脂製品の成形・組立

日産車体エンジニアリング株式会社

- ▶ 自動車生産設備、各種FA、動力設備のエンジニアリング、物流機器・リチウムイオン電池製品の製造・販売

株式会社 オートワークス京都

- ▶ 自動車の特別架装

日産車体コンピュータサービス株式会社

- ▶ システム開発・プログラム開発業務

株式会社 プロスタッフ

- ▶ 人材派遣

沿革

年 月	社 歴
2024年	4月INFINITI「QX80」、7月「パトロール」(Y63)、10月「アルマーダ」(Y63)生産開始
2018年	11月パラメディック(E26)発表
2014年	3月、新本社を第2地区に竣工・湘南地区再編完了
2012年	湘南工場第1地区での車両生産を終了、湘南工場第4地区での車両生産を第2地区へ集約、湘南工場の車両生産体制の再編を完了
2010年	日産車体九州稼働開始
2007年	子会社「日産車体九州株式会社」設立／生産累計1,500万台達成
1992年	生産累計1,000万台達成
1951年	日産自動車株と提携
1949年	当社前身 新日国工業(株)設立

▶ INFINITI



▶ LCV



NV200 NY市 タクシー提案モデル

▶ ミニバン



▶ フェアレディZ



主な生産車

湘南工場



NV200
VANETTE
NV200 バネット



AD
AD



QX80
QX80



PATROL
パトロール：Y63



救急・医療関係車両



消防関係車両



PATROL
パトロール：Y62



ARMADA
アルマーダ



幼稚園バス



公共応急作業車両



ELGRAND
エルグランド



CARAVAN
キャラバン



公共応急作業車両

※ 株式会社オートワークス京都は、パラメディック(高規格救急車)など救急・医療関係車両、消防関係車両、幼稚園バス、公共応急作業車両など働くクルマの架装を行っている日産車体株式会社のグループ会社です。

特長

完成車メーカーとしてのDNAを活かした、 多くの特長を持っています

湘南工場

LCVを中心とした多車種少量生産の
一大拠点



日産車体九州

厳しい品質基準をクリアし、日産のプレミアムブラン
ドである「INFINITI」の生産を許されている工場



▶ ローラーヘミングによるエンジンフードの生産



▶ 3-WET塗装

特装車

グループ内での一貫生産により、高品
質な特別仕様車をスピーディに提供



決算サマリー

当社グループを取り巻く環境は、原材料価格の高騰や需要の変動など、先行き不透明な状況が続いている。このような環境において、売上台数は減少したものの、前型車に比べ売上価格の高い車両の販売台数が増加したことにより増収。一方、最先端の性能を有する車両の連続した立ち上げに対し、生産効率が十分に上がらないことにより売上台数が需要に追いつかず、また人員や生産時間を増やしたため追加の生産コストを要したこと等により減益となった。

売上台数

今年4月に生産を開始した北米向け「新型インフィニティQX80」が増加したものの、主に「AD」や「NV200バネット」等の商用車が減少した結果、前年同期と比べ11.4%減少の63,557台

売上高

売上台数は減少したものの、前型車に比べ売上価格の高い「新型インフィニティQX80」や「新型パトロール」の増加等により、12億円増加の1,468億円

営業利益

商用車を中心とした売上台数の減少による影響や、最先端の性能を有する「新型インフィニティQX80」や「新型パトロール」の連続した立ち上げに対し、生産効率が十分に上がらないことにより売上台数が需要に追いつかず、また人員や生産時間を増やしたため追加の生産コストを要したこと等により27億円悪化の22億円の損失

経常利益

26億円悪化の19億円の損失

親会社株主に帰属 する中間純損益

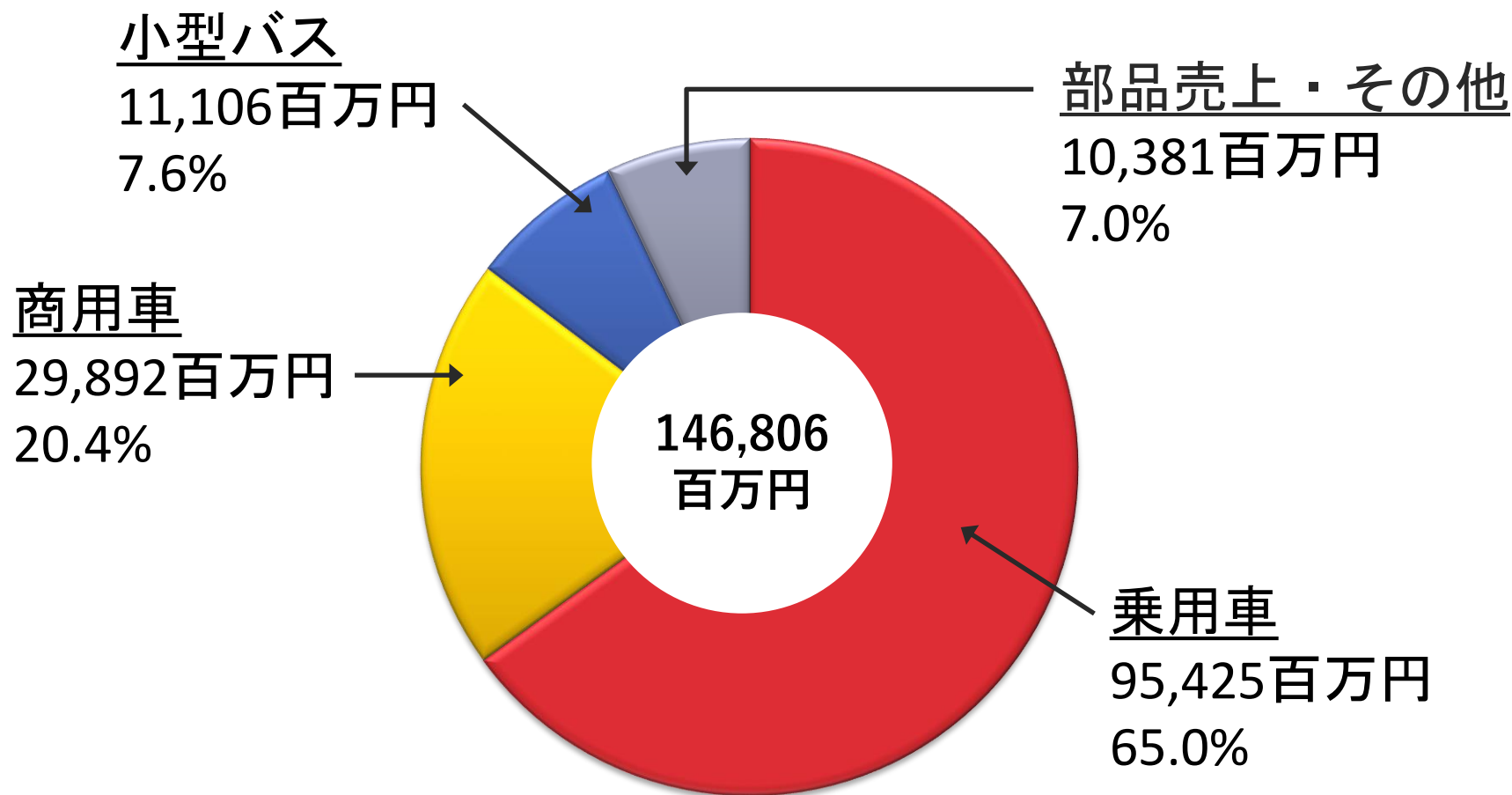
18億円悪化の14億円の損失

業績ハイライト

単位:百万円

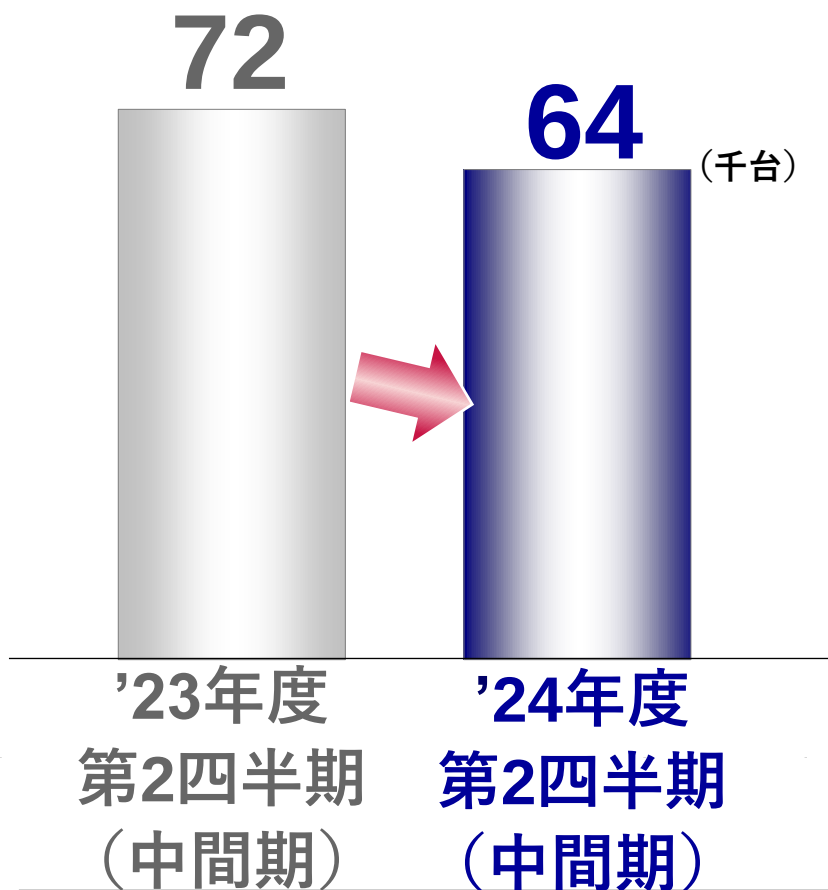
	2023年度 第2四半期 (中間期) (2023/4～9)	2024年度 第2四半期 (中間期) (2024/4～9)	増減額(率)		通期計画
売上高	145,579	146,806	1,227	0.8%	351,300
営業利益	488	▲ 2,270	▲ 2,758	—	4,400
経常利益	695	▲ 1,984	▲ 2,679	—	4,900
親会社株主に帰属する 中間純損益	414	▲ 1,459	▲ 1,873	—	2,400

製品別売上高構成比



売上台数

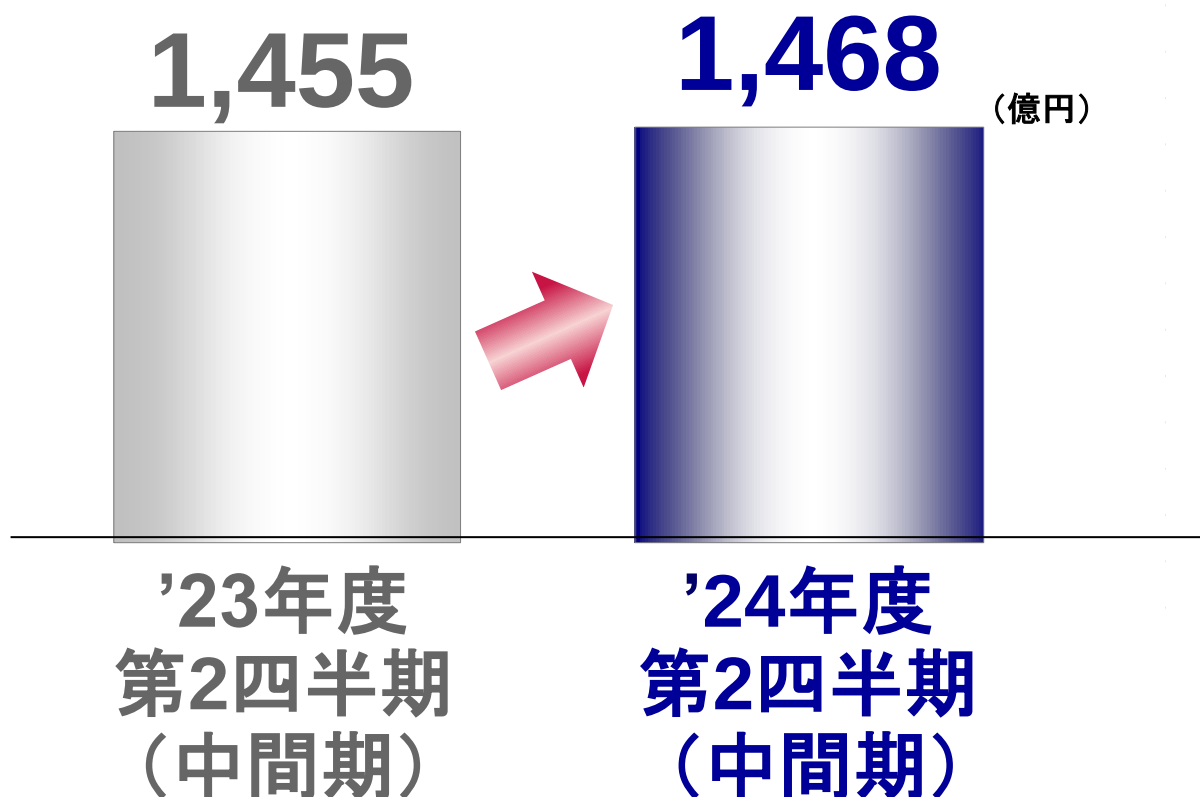
今年4月に生産を開始した北米向け「新型インフィニティQX80」が増加したものの、主に「AD」や「NV200バネット」等の商用車が減少した結果、前年同期と比べ11.4%減少の63,557台



	(千台)		
	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	37	33	-11.1%
商用車	29	24	-18.9%
小型バス	6	7	22.0%
合計	72	64	-11.4%

売上高

売上台数は減少したものの、前型車に比べ売上価格の高い「新型インフィニティQX80」や「新型パトロール」の増加等により、12億円増加の1,468億円

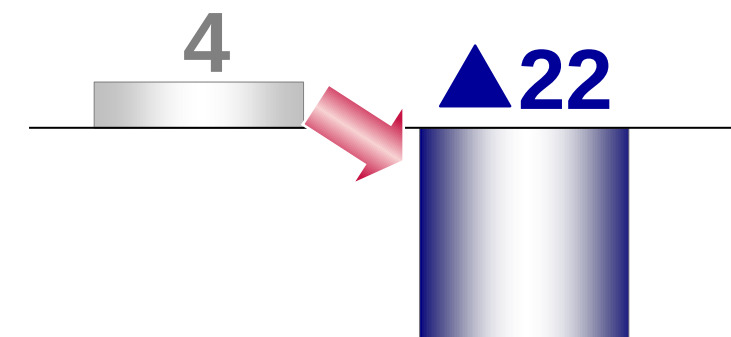


営業損益／経常損益

営業損益は商用車を中心とした売上台数の減少による影響や、最先端の性能を有する「新型インフィニティQX80」や「新型パトロール」の連続した立ち上げに対し、生産効率が十分に上がらないことにより売上台数が需要に追いつかず、また人員や生産時間を増やしたため追加の生産コストを要したこと等により27億円悪化の22億円の損失

経常損益は26億円悪化の19億円の損失

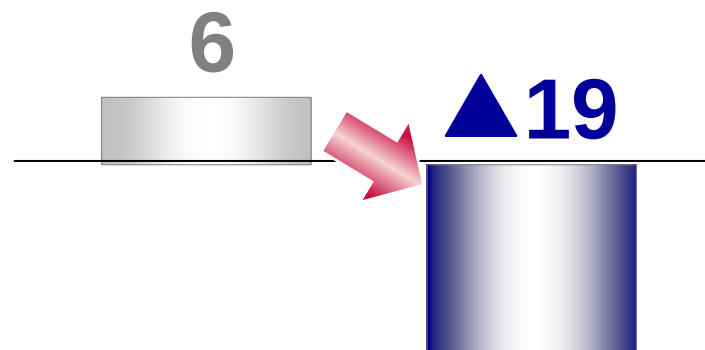
営業損益 (億円)



'23年度
第2四半期
(中間期)

'24年度
第2四半期
(中間期)

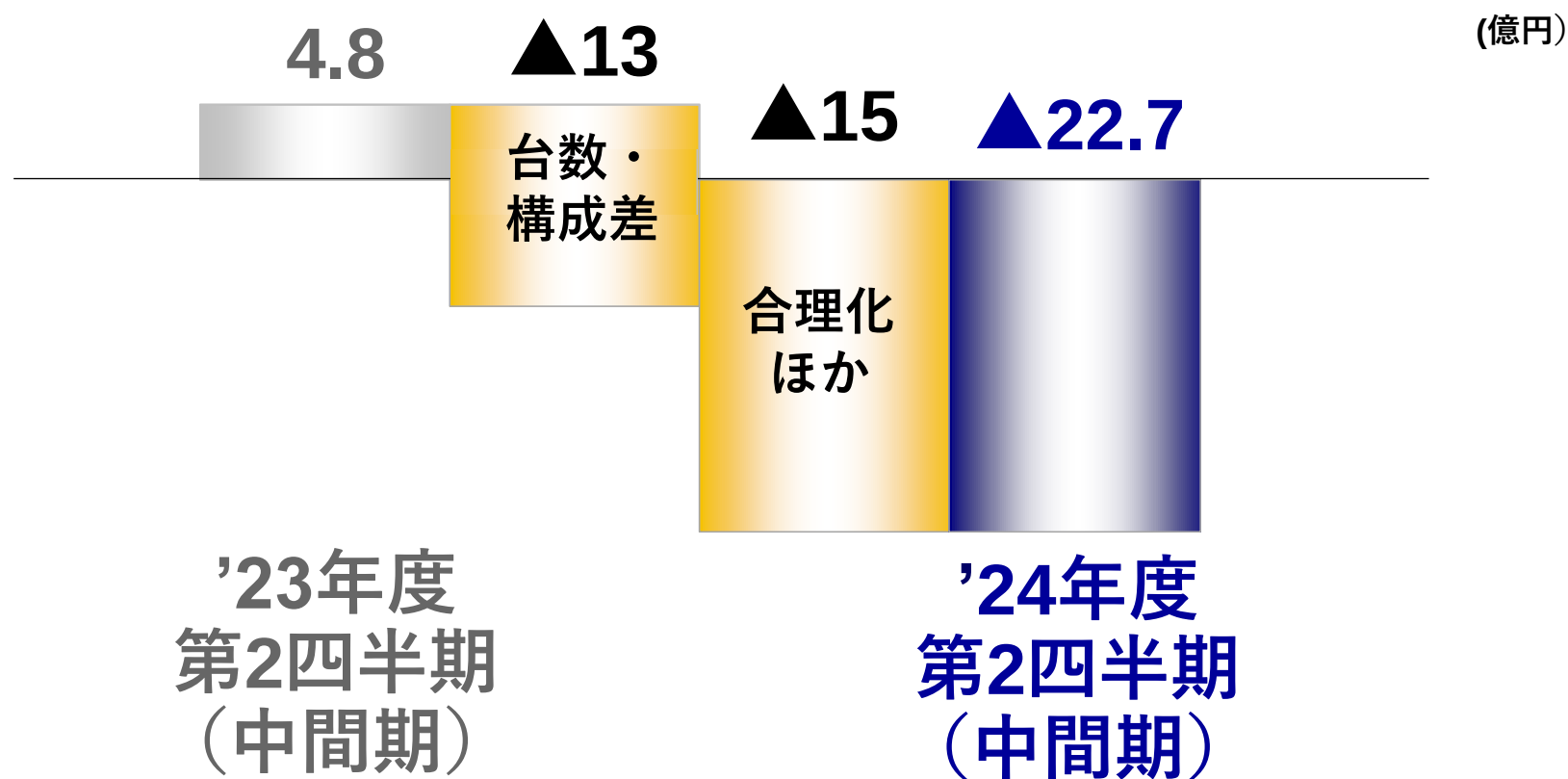
経常損益 (億円)



'23年度
第2四半期
(中間期)

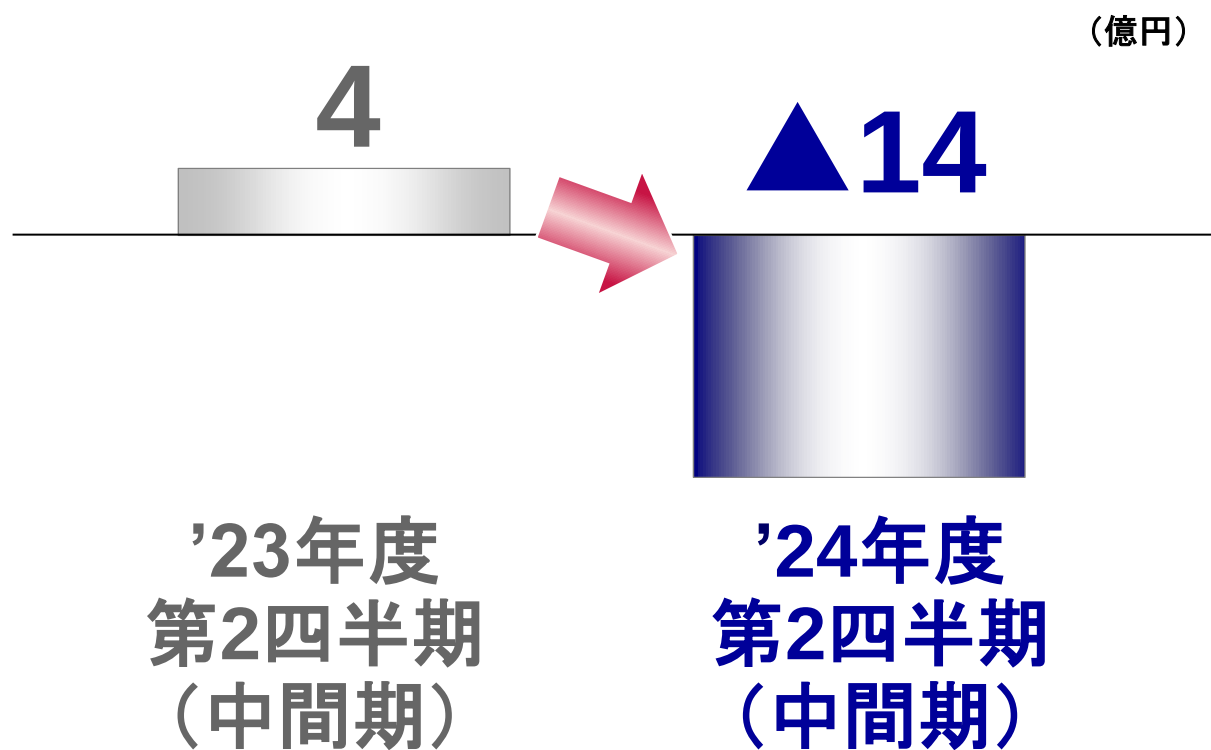
'24年度
第2四半期
(中間期)

営業損益の増減要因



親会社株主に帰属する中間純損益

18億円悪化の14億円の損失



2024年度 1株当たり配当金

安定配当を継続する基本方針のもと、2025年3月期は年間13円を予定

■ 中間配当金 ■ 期末配当金

